

2020年9月2日  
一般財団法人 日本気象協会

防災レポート Vol.6

## 台風第10号、観測史上最強クラスの勢力で九州へ接近、上陸の可能性（速報） 6日、九州地方では、洪水・土砂災害・交通や物流ストップの恐れ

日本気象協会は、台風第10号に伴う今後の大雨などの見通し（9月2日13時時点）に関する情報を、防災レポート（速報）として発表します。

9月1日（火）21時に小笠原近海に台風第10号が発生しました。今後、台風第10号は、勢力を強めながら西から北へ進み、9月6日（日）から7日（月）にかけて九州に接近する見込みです。

（図1）九州・四国・中国地方では、台風に伴う大雨や暴風による影響により、洪水や土砂災害の他、交通機関の寸断等による物流ストップの恐れがあります。

台風第10号は、6日9時に九州の南の海上で930hPa、最大風速50m/s（特別警報級）の勢力まで発達することが予想され観測史上最強クラスの勢力※で九州へ接近、上陸する可能性があります。

進路に大きな幅があるため、広い範囲での警戒が必要となりますが、現時点で、特に警戒する事項と地域について以下にまとめました。

- （1）九州山地の東側斜面での大雨 -これまでに経験したことがないような雨の可能性も-
- （2）九州・中国・四国地方の暴風、高波・高潮 -停電や通信障害の恐れも-

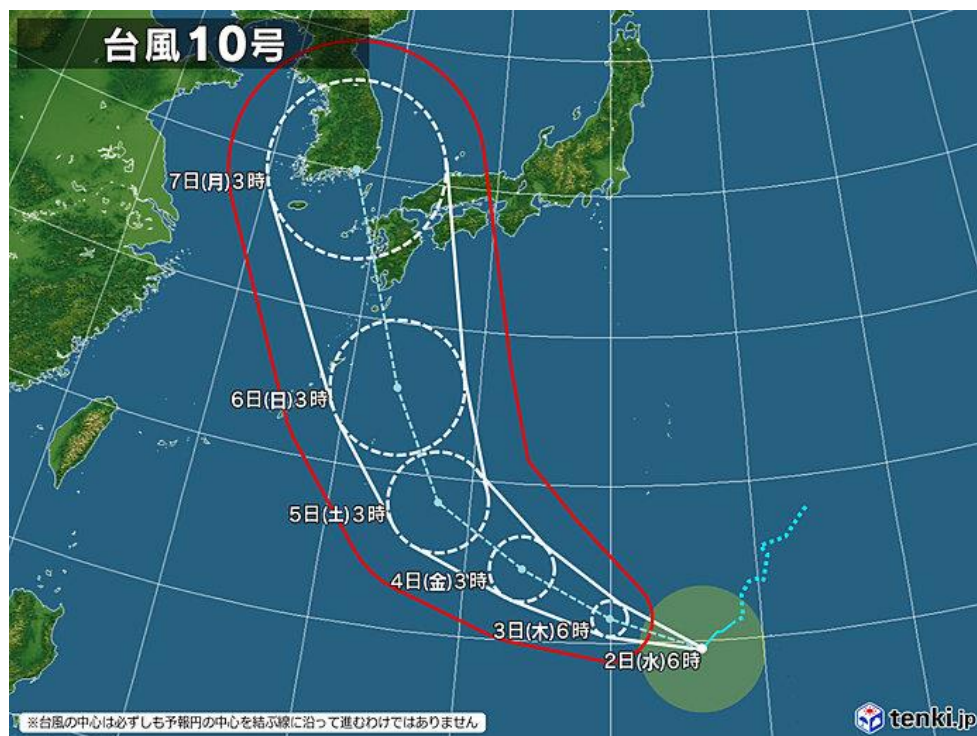


図1  
今後の進路予想図（2日9時発表）

1. **雨** 九州山地の東側斜面での大雨 -これまでに経験したことがないような雨の可能性も-

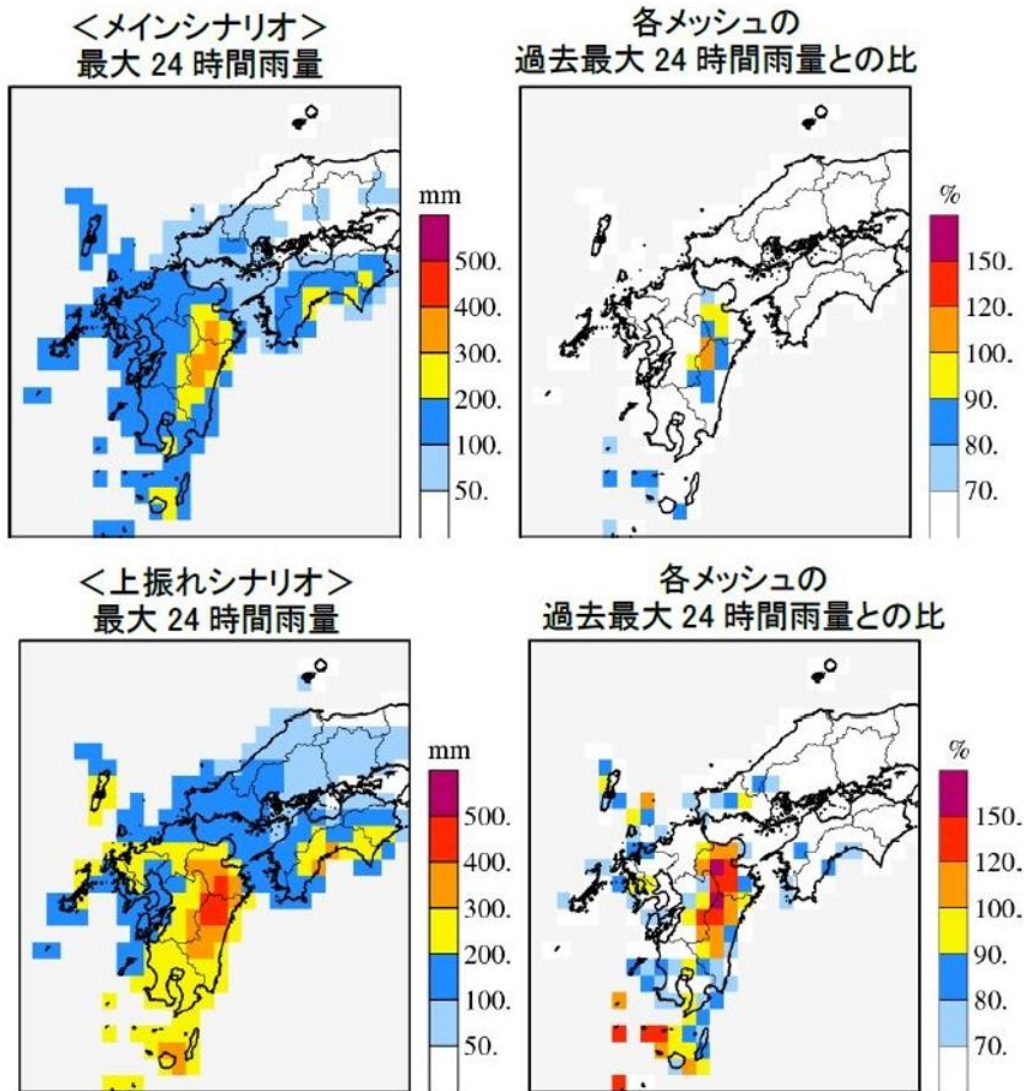
台風第10号が、西日本に最接近した場合、期間中の最大24時間雨量が400mm、その既往最大比（過去の最大値との比較）が150%を超えるエリアが九州山地の東側斜面に予想されています。これらの地域では、これまでに経験したことがないような雨の降り方をすることがあることから、洪水による浸水害や土砂災害が発生する可能性が高いと考えられます。

また期間中の最大24時間雨量は、ダムが事前放流を判断する目安となっています。特に大分県・宮崎県・熊本県・福岡県内の大河川上流域のダムでは事前放流を行う可能性があります。ダムの放流情報や河川水位の変化に対する早めの注意が必要です。

そして、西日本の広い地域では数時間の強雨によって中小河川の氾濫やがけ崩れなどが発生する可能性があり、注意が必要です。

## JWA アンサンブル雨量予測

予測対象期間:3日0時~7日21時



JWA 日本気象協会

図 2

9月2日9時時点の3日0時~7日21時にかけて予想される最大24時間雨量とその過去最大値との比。上段は「メインシナリオ」を示すアンサンブル平均雨量予測。下段は、予測が上振れした場合の雨量予測。

## 2. **風** 九州・中国・四国地方の暴風、高波・高潮 -停電や通信障害の恐れも-

台風第10号による暴風は、9月6日～7日にかけて、西日本の広い地域で発生する可能性があります。最大瞬間風速30m/sの確率が50%以上の地域は、九州から中国・四国地方に広がり、特に同確率70%以上の地域は、九州・四国地方・山口県に広がっています。これらの地域では、電線や通信線の切断などによる停電や通信障害の恐れがあります。

また、台風が南の海上の離れた海域にある場合から、海岸沿いでは、高波に対する注意が必要となります。さらに、台風が接近する地域では、高潮による沿岸地域の浸水への警戒が必要です。

### JWA アンサンブル風速予測

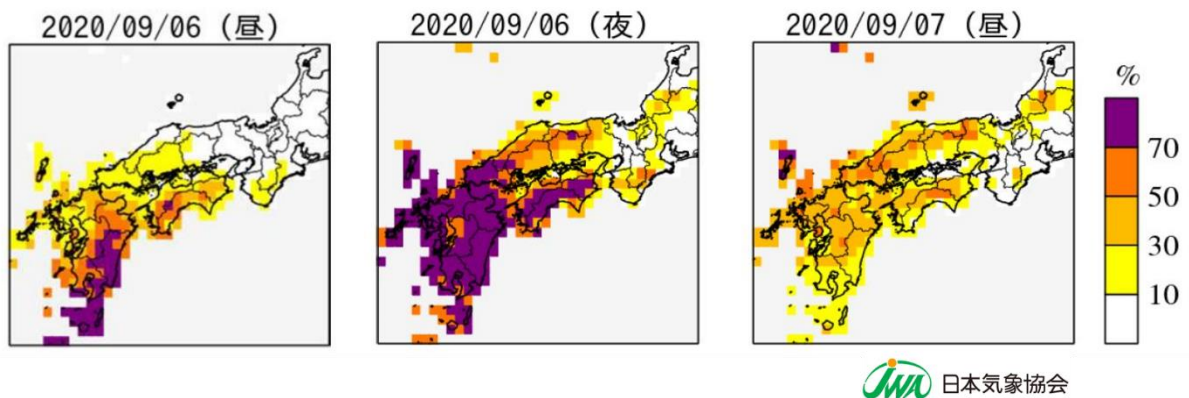


図 3

最大瞬間風速 30m/s の確率

## 3. **事前の備えについて**

台風は、事前の予報よりも早めに接近する場合や急に進路が変わる可能性があります。

避難の際は、以下に注意して行動しましょう。

- ・ 早めに、ハザードマップなどによる周辺地域の危険箇所・避難場所を確認しましょう。
- ・ 最新の台風情報や避難情報をチェックしましょう。
- ・ 避難の際には、ウィルス感染対策にも配慮しましょう。

本情報は 2020 年 9 月 2 日 13 時時点の予測資料から作成したものです。最新の気象情報は日本気象協会の天気予報専門サイト「tenki.jp」<https://tenki.jp/> でご確認ください。

### 補足事項

- 1) メインシナリオ予測：51 通りの予測シナリオのうち、最も確率の高いシナリオ。
- 2) 過去最大雨量の比較対象期間と比較対象データ：2006 年～2019 年の国土交通省解析雨量(1km メッシュ雨量)。

※観測史上最強クラスの勢力について

統計期間 1951年～2019年第29号までの上陸時（直前）の中心気圧が低い台風

出典：気象庁ホームページ

順位	台風の名称	上陸時気圧 (hPa)	上陸日時	上陸場所 (当時の市区町村名)
1	第2室戸台風 (昭和36年台風第18号)	925	1961年9月16日 09時過ぎ	高知県室戸岬の西
2	伊勢湾台風 (昭和34年台風第15号)	929	1959年9月26日 18時頃	和歌山県潮岬の西
3	平成5年台風第13号	930	1993年9月3日 16時前	鹿児島県薩摩半島南部
4	昭和26年台風第15号	935	1951年10月14日 19時頃	鹿児島県串木野市付近
5	平成3年台風第19号	940	1991年9月27日 16時過ぎ	長崎県佐世保市の南
	昭和46年台風第23号		1971年8月29日 23時半頃	鹿児島県大隅半島
	昭和40年台風第23号		1965年9月10日 08時頃	高知県安芸市付近
	昭和39年台風第20号		1964年9月24日 17時頃	鹿児島県佐多岬付近
	昭和30年台風第22号		1955年9月29日 22時頃	鹿児島県薩摩半島
	昭和29年台風第5号		1954年8月18日 02時頃	鹿児島県西部



一般財団法人 日本気象協会

社会・防災事業部

担当部長

技術士（総合技術監理部門、建設部門）、気象予報士

後藤 祐輔（ごとう ゆうすけ）

筑波大学第一学群自然科学類 卒業

土砂災害向けの降雨解析業務、ダム管理向けの降雨予測・流入量予測システム構築・運用等の防災関連業務を行っている。

◆◆◆お問い合わせ先◆◆◆

1) 一般企業・自治体の方

日本気象協会 社会・防災事業部

TEL：03-5958-8143 MAIL：[eigyoubosai@jwa.or.jp](mailto:eigyoubosai@jwa.or.jp)

当レポートは情報提供のみを目的として作成されたものであり、取引の勧誘を目的としたものではありません。本資料は、当社が信頼できると判断した各種データに基づき作成されておりますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。本資料のご利用に際しては、ご自身の判断にてなされますようお願い申し上げます。また、本資料に記載された内容は予告なしに変更されることもあります。本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要ですので、当社までご連絡ください。商品ごとの情報やコンサルティングにつきましても当社までお問い合わせください。